

平成26年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471400182	事業の開始年月日	平成14年11月1日
		指定年月日	平成14年11月1日
法人名	有限会社 仙口		
事業所名	グループホーム みやまの里		
所在地	( 258-0001 ) 神奈川県足柄上郡松田町寄4165		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	6名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成26年11月19日	評価結果 市町村受理日	平成27年6月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp/Details.aspx?IGNO=ST1471400182&amp;SVCD=320&amp;THNO=14363">http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp/Details.aspx?IGNO=ST1471400182&amp;SVCD=320&amp;THNO=14363</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者と職員が一体となって明るい家庭的な雰囲気作りを行います
- ・利用者が自分らしくゆっくりと楽しく自由に快適に過ごせるように努めます
- ・利用者の自立への気持ちを大切に心身機能の維持・回復・増進に努めます
- ・町内会、老人クラブ、小中学校、保育園等の行事への参加を通して、地域連携を図り地域に根付いたグループホームづくりに努めます

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成26年12月20日	評価機関 評価決定日	平成27年4月7日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小田急線新松田駅からバスで約30分、寄(やどろぎ)バス停より徒歩5分の山に囲まれ、近くにはテニスコートもあり、自然豊かな中で、合宿練習などがされている自然休暇村の地区にあります。

<優れている点>

豊かな自然の中、利用者は年中行事や祭りなどを通して、地域交流が展開されています。建物は元々、民宿の用途に使用されており、1階には40畳を越す畳の間があります。3月にはひな壇が所狭しと飾られ、地域の幼稚園児や小学生が訪ねて来て交流の機会があります。檜の自然無垢の素材で作ったフローリングと、壁面がピーリング(横目地の板張り)の談話室があります。ここでは利用者の方が自由に集まったり、入浴後のひと時をゆっくり過ごす場になっています。室内のガラスケースの中では、南半球に生息する珍しい動物が温度管理をして飼育され、その成長も楽しみの一つになっています。マザーテレサの「無私の愛」を彷彿とさせる事業哲学は、地域の方にも受け入れられ、通りかかれば気軽に声が掛かったり、お茶を呼ばれたりして利用者が地域に溶け込んでいます。

<工夫点>

入浴は、寝る前に入りたい希望を支援することで、夜間のトイレ離床が回避される効果が上がっています。廊下には、これまでの外出や行事の際の写真が貼ってあり、見ているだけで楽しくなるような計らいがされています。冬季シーズンは、こたつで暖をとりながらの食事ができるようにすることで、利用者同士の団欒の時間を確保しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム みやまの里
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員全体でサービスの向上、事業所の理念について管理者と職員で日々実践につなげていく様取り組んでいる。	入居者の一人ひとりが生き生きと生活し、自由に過ごせるようなホームでありたいという考えのもと、職員の日常のケアの場面で常に意識してもらえるよう、業務を通して考えを伝え共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の祭りや自治会の行事にも参加し地域の方々に皆さん声を掛けて頂き日常の散歩でしばらく会わないと声がかかる。	ひな祭りでは地域の子供会をはじめ、100名分のトン汁を振る舞い、利用者と地域の人との交流の機会を持っています。この他には、花見やバーベキュー、盆踊りなどの地域行事に積極的に参加し交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ひな祭り、寄神社祭りや十五夜など小学校、幼稚園児がホームを訪ねてきて利用者と一緒に遊ぶなどしています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	自治会長、民生委員の方々、地域の方の参加を頂き、施設の内容を知ってもらい評価・取り組みの状況を話し合っている。	地域の方の参加を得て年に4回実施しています。ここでの話し合いの成果として、災害面で地域の避難待機の場所に指定されました。入居している利用者の様子を知って貰える良い機会になり、近所付き合いがスムーズになっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	いろいろの方々と連絡し、逢いに行きサービスの取組みを蜜にし協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者からの入居者相談や消防担当部署との防災関係の他、地域行事など様々な連絡のやり取りをしています。地域行事の「産業まつり」で、茶会の席を設けた際の売上金を社会福祉協議会に寄付するなど地域貢献の機会も活かしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに全員で最善の注意を払って取り組んでいる。	利用者の言動にに対して、「打消し」や「止める」ことはしないようにしています。利用者が外に出たい時は職員がついて行き、買い物の場合は、利用者 に一定のお金を先に渡して、自由な意思を尊重することを実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の防止等について常に気を配る様に全体で取り組み、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員全体で日常生活自立支援事業や成年後見人、社協の方々と毎月密に話し合っ て支援をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関してすべて十分な説明を行い、理解納得の上業務を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族、成年後見人の方々に意見や報告を蜜にし、事業に反映しています	成年後見人との通信や連絡の際、本人の要望を聞く機会を持っています。意見交換の場面では、喜んでもらっているとの返答が返ってきています。家族と疎遠になっている利用者にも、月例通信の中にコメントを添えていつでも見れるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者、職員は毎日話し合いそのつど業務に反映させています。	職員は、気づいたことはその都度、気軽に管理者に話すようにしています。利用者の事情に応じてポータブルトイレの利用を考えたり、その際、お湯を準備したうえでホットタオルの利用など、職員の意見が反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規定を守り、各自勤務状況を把握し、向上心を持って職場環境を踏まえ努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員は法人内外の講習会に参加し、ケアに役立つことや、実際の力量を把握し育てる取組みをしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	足柄地区のグループホームの施設との交流、施設の入居者の訪問もあったりし、交流を図り向上に役立てています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人のニーズに合わせ、不安や要望に耳を傾けながら安心を確保するため、関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の方には毎月1～2回逢う機会を持って不安や要望に耳を傾け、良い関係を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族等のまず必要として求められる事などを見極め支援し、サービスを含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常に本人と共に暮らせる事を共有し深い関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族の絆は最も大切だと考えながら、本人を支えていく支援をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みは一番大切だと考え、いろいろな面からその関係が途切れる事のないよう努めている。	いつもの道を通って散歩に出掛けたときや、畑に芋ほりに行ったときなどは、近所の人からお茶の差し入れやお招きに預かったりすることがあります。地域の中に自然に溶け込み、関係性が継続しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ゲーム、食事、買物、散歩等は常に全員で関わる様支援し、仲の良い関係ができるよう支援し努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスを終了されても、家族の方々と交流が続き、大切な相談者で有り支援者でも有ります。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとり毎日好きな暮らし方をしています。観察をしながら支援をし本人本位に過ごして頂いている。	利用者の表情や言動の観察に特に気をつけるようにしています。発語に支障のある場合、ジェスチャーやわずかな声や勢いで、思いを感じるようにしています。利用者本位の考えに従い、細かい面にも留意して思いを引き出すように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの生活や暮らし方はそれぞれ違い、サービスの利用の経過を把握しながら暮らしの手助けに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝の食事から生活のリズムを取りながら、体調の変化を把握しその日の一日を楽しく過ごして頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画に本人のその人らしさやケアを含め、職員は全員で利用者本人のより良いアイデアを踏まえて話し合い計画を作成しています。	ケアマネジャーと介護職員が普段から話し合い、情報共有の機会を持っています。、要介護度の認定更新や変化がみられるときにはカンファレンスを行っています。モニタリングは月に一度実施しています。	日常の暮らしの中での出る言葉をそのまま記録し、快・不快の感情面の観察をすることでその要因をシートに記録して積み上げ、介護計画に反映していくことも期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子、気づいた事や結果を実践へ反映しながら、介護計画を見直しながら活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ニーズに対応しつつ、温泉入浴や施設見学、柔軟な支援サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	一人ひとりの暮らしを大切に地域資源を把握し、心身の力を発揮できる豊かな暮らしを楽しむ様支援する。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医が月2回往診をしてくれます年1回は健康診断をし適切な医療が受けられています。	月1回協力医の訪問診療は、内科医と看護師が同行して全利用者に行っています。また曜日を変えて個別に一人ひとりを診察し、利用者の健康維持に努めています。歯科は要望があれば訪問診療を受けています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月2回の主治医との連携を大切にし相談等も適切に対応出来ています。訪問看護師等も受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の意見を元に対応して、いろいろな情報交換をし、病院関係者との連携も行ってる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合早い段階で家族、医師に連絡を取り、利用者のニーズに合わせ対応を検討し、支援に取り組んでいる。	重篤の方には医師と連携し、様態の変化に応じて職員が対応すべきマニュアルができています。最近も夜間に突然の容態変化で、看取りする場面があり、連絡や対応、看取り後の手順などに加え、時間・連絡先の明記と他の利用者への配慮もしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署の訓練に毎年参加をし、職員全員が応急手当や初期対応の実践力につなげた支援をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回5月、11月の消防署への届出と共に利用者、職員全員で避難訓練を実施している。当施設は地域の避難場所に指定されています。	年2回防災と避難訓練を実施し、目の不自由な利用者にはおんぶ紐を用意しています。管理者が地域消防団員で事業所は一時避難の場所です。非常用持ち出しリュックは階段下に用意し、災害用の備蓄品は一覧表を作成して地下に1ヶ月分を収納しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の全体の病状を読み取り、一日が満足感のある生活が出来る様、職員は全員ゆとりを持って対応する様務めている。	耳や目の不自由な利用者も安心して過ごせるように、しぐさや表情から思いを汲むような声掛けや、肩などに手を触れて利用者の意思を確認しながら支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望はなるべく取り入れ、決定していく様努め、働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人らしい自由な日々を過ごしています。その日の一日の希望などを聞いた上で支援に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者さんが好みのおしゃれをされています。時には口紅をつけたり、男性にはヘアートニックをつけたり顔にはクリームをつけたりして、その人らしく支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	自家製なものしか出していないため常に旬の物も召し上がっておられ、職員と一緒に準備や食事、片付けもしている。	食材は一週間分を、利用者とスーパーへ買いに行き、近所からは旬の野菜が届いています。献立は代表者が作成し職員と調理しています。その日の献立は職員と振り返り次回へ反映させています。冬場は居間のこたつで皆と一緒に食べています。外食にも出掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立には栄養面のバランス等を考え摂取量など一人ひとりの状態を把握し、残量を記録しつつ支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアの講習などに毎年参加をし実践に写しています。毎日のケアにはしっかり取り組んで支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の介護は、おむつ使用の人もパターンを知り、トイレの排泄への自立に向けた支援を行っている。	トイレは男女別にあり排泄の支援をしています。夜間でも排便後はお風呂に入れたり、寒い時期でのおむつの方は、ビニール袋にタオルと熱湯を入れて用意し、介助の終わりにその暖かいタオルで拭き、清潔と気持ちよく過ごせる工夫をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘などの利用者さんは医師に相談したり、飲食物の工夫や運動への働きかけ、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は利用者全員が大好きです。曜日などしっかり決めずその人のタイミングに合わせた入浴方法で清潔に生活が出来る支援に取り組んでいます。	利用者の希望によりいつでも入浴でき1対1の対応です。温かい時期は14時ごろに、冬は全員が21～22時頃寝る前に入っています。体を温めて睡眠に入るので夜間に排泄をする人が少なくなっています。リフト浴の設備も整っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	布団は天気良ければ常に日に当て、冬季は電気毛布や湯たんぽ、部屋の乾燥のない様気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の利用者一人ひとりにそのつど手渡しをし、副作用など注意し病状の変化を確認し支援に務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴や習慣などに合わせたその人らしい生活を活かした楽しみ方や、嗜好品、趣味等いろいろな形で支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出は月に1～2回、買物やドライブなどに戸外へ出かけ、いろいろな人との出会いを大切に、本人の希望も取り入れた支援をしている。	自然休暇村内で、中津川が流れ山に囲まれた素晴らしい環境です。日常的な散歩や、郵便局や買い物に出掛けています。小遣いで好みの物を買って、支払いの様子を見守っています。郷土行事や四季折々の自然を観に車でも出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買物にはお金を渡しその金額で買える様考えてもらったりし、レジにて本人が買うことを支援し、見守っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話などの場合は、ワイヤレス電話機を用意し本人に渡している。手紙等は郵便屋さんが施設から持って行ってくれます。届いた郵便物は本人に渡しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共同空間は誰でもがいつでも往行し写真や生花等が生活空間となっていて、居心地良く過ごせる様工夫をしている。	1階の大広間（43畳）ではビデオをみたり、他の施設の方と一緒にカラオケを楽しんでいます。廊下の壁は地域の方との交流写真や墨絵などを掲示し、玄関ホールや食堂には伝統玩具や工芸品、生花を飾り、水槽の金魚をかわいがって話し掛けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	その人らしく過ごされる様、利用者さんの希望にそった居場所を作ったりして工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は季節の花や品物を置いたり、物の位置を替えたりして本人と一緒に考え居心地の良い環境になる様工夫している。	2階が居室になっています。8畳の和室と板の間に応接セットがあり10畳ほどの広さです。エアコンとベッドを設置し、窓から自然が満喫できます。趣味の物が置かれ小物の飾りを作っている方もいます。居室は毎朝、職員が清掃しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとり自由に施設の中を生活の場として使われています。安全を考え建物内を常に気を配った支援をし工夫をしている。		

平成26年度

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム みやまの里

作成日： 平成27年 6月 4日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		問題点としては、毎日が同じ職員なので同じ意見になりがちです。変った運営も勉強していく。	変化の有る話し合いをしたいと考えて進めて行きたい。	そのつど話し合うよう取り組みたい。	12ヶ月
2		居室が長い事空いており経営上に支障が起きてしまうと云う事でいろいろな方法で各市町村にあたっています。	6月で半年3名ですので、どうしても入居者を募りたい。	各所にパンフレット、手紙や直接訪問してケアマネさんにお逢いしてお願いしています。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月